富士大学新学長であいさつ



し上げます。

問を学生に伝授して社会に

ないという側面があります。人口の減少と少子化の中 合的な教育活動が必要と考えています。 にあって、学生確保・教育内容・進路支援に重点を置い 大切になっています。

本学の特徴は、ビジネスマンの養成を目指した実学すよう心からお願い申し上げます。 教育とスポーツ振興を通じての人間性豊かな人材を養 成すること、大学院では税理士等の専門家及び研究者

学長就任にあたって、所信の養成であります。社会では、修得した知識をもとに を含めて一言であいさつを申 問題解決に応用できる能力が求められており、学生の 勉学意欲を引き出し、支援し、職業意識を自覚させ、学 大学の使命の一つは、学士力を向上させることが肝要であります。

他大学との連携である「いわて高等教育コンソーシ 貢献できる人材を養成する アム」の掲げる事業推進に貢献することは、富士大学 こと、そして、未来の発展に の充実と発展に展望を与えるものです。また、地域か 貢献できる学問を創造する らの期待に応える社会貢献活動を一層推進し、大学· ことであります。しかし、社会情勢と生活環境のめまぐ 行政・市民が一体となって、学部、大学院などの教育・ るしい変化に大学の教育・研究が十分に応えられてい 研究に取り組み、大学教育と地域連携を発展させる総

大学を取り巻く環境は厳しい時代が続きますが、教 て取り組み、学生満足度を一層向上させていくことが 職員が力を合わせて夢と活力のある大学を目指して努 力してまいります。皆様からの温かいご支援を賜りま

富士大学 学長 藤原 降男

今後の予定

拡大版ウィンターセッション 12月25日(金)~27日(日)

いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム 2月6日(土)

FD講演会 3月5日(金)

2008年ノーベル化学賞受賞下村脩教授ご講演 [遠隔講義 (TV会議) システム配信] 3月29日(月)

ロゴマーク&キャラクター大募集

いわて高等教育コンソーシアムでは、親しみやすく、事業にふさわしい ロゴマークおよびキャラクターを募集しています。

応募方法などの詳細は、 コンソーシアムホームページ http://www.ihatov-u.jp/

でご確認ください。

【募集期間】2009年11月24日~2010年1月12日必着



【お悔み】10月2日に、富士大学小山田了三学長が急逝されました。 謹んで小山田前学長の生前のご活躍に感謝し、ご冥福をお祈りします。

連携校紹介

盛岡大学

学校法人盛岡大学は、盛岡大学、盛岡大学短期大学部、盛岡大学附属高等学 校、盛岡大学附属厨川幼稚園、同松園幼稚園、盛岡調理師専門学校の6つの学校 を設置する学校法人です。

盛岡大学は昭和56年に文学部の単科大学として開学。現在、英語文化学科、日 本文学科、社会文化学科、児童教育学科の4学科で構成しております。

建学の精神として、キリスト教精神による教育を掲げ、文化の向上と社会の福祉 に貢献する有為な人間を育成することを目的としています。

平成22年4月、盛岡大学では北東北の私立大学として初めて管理栄養士の養成 を目的とする4年制の「栄養科学部」を開設します。これは栄養と健康を地域に根 ざして科学するもので、地域社会の大きな期待を背負うものであります。

盛岡大学は開学以来、地域のニーズに応え、人材を育成してまいりました。その 中でも特に多くの卒業生を送り出しているのは教育界です。教員採用試験の合格 者は開学以来で1803名(1988~2009年)に上っています。

盛岡大学はこれからも「人々の幸福に貢献する精神」を学生に植え付けて行き、 そしていわて高等教育コンソーシアムと共に未来を見つめます。



盛岡大学キャンパス

異学年クラスの授業風景



授業コンテスト・テーマ劇コンテスト表彰

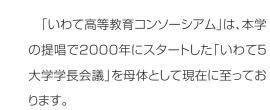
岩手大学 富士大学 岩手県立大学 盛岡大学 岩手医科大学

いわて高等教育コンソーシアム http://www.ihatov-u.jp/

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目18-8 TEL:019-621-6853 FAX:019-621-6995 メールアドレス:ihatov5@iwate-u.ac.jp







岩手県内に所在する5大学が連携して、地 域の知の拠点を形成し、地域の活性化を目指 すねらいは、2000年当時も現在も変わりは ありません。少子高齢化の進行、若年層の県 外流出、経済や雇用環境の停滞など岩手県が

he Iwate Higher Education Consortium $\mathrel{\triangleleft}$



岩手県立大学 学長 中村 慶久

直面する諸課題の解決に向けて、私たち大学人も積極的に職責を果たして まいりたいと考えております。

いわて高等教育コンソーシアムは、設立目的に「地域の中核を担う人材育 成」及び「地域社会への貢献」などを掲げ取り組みを始めているところです が、その中核を成す事業のひとつに地域人材育成講座「いわて学」がありま す。この「いわて学」は、学生が自然・歴史・伝統・文化・産業など多面的に"いわ て"という地域を知り、"いわて"の魅力や可能性を探る講座として平成22年 度から5大学が共同開設することとしているものです。

本学はこの事業の主務校を務める栄に浴し、「知るいわて・探るいわて」の コンセプトのもと、授業内容の構成などを進め、各大学と連携しながら開講 に向けた準備を行っているところです。

各地を見渡せば、積極的なリーダーが活躍している地域ほど活性化に導 かれていると認識しており、私としても地域の若手リーダーを育てたいと考 えております。この「いわて学」を学んだ若きリーダーが、地域を背負って立 つ日が近からんことを切望します。

私ことで恐縮ですが、本県(滝沢村)出身の私としては故郷のために骨を うずめる覚悟であり、若手リーダーの育成のためにも微力ながら自分の経験 を役立てたいと考えております。

連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局(岩手大学研究交流部研究協力課)

平成21年12日28日発行

いわて高等教育コンソーシアムは、平成20年度の文部科学省戦略的大学連携支援事業に「い わて高等教育コンソーシアムにおける地域の中核を担う人材育成と地の拠点形成の推進」が採択されたの を契機に、平成12年度から続けられていた「いわて5大学学長会議」を発展的に継承して設立されました。 岩手県内の5大学(岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学)で構成される本コン ソーシアムは、多様な領域で地域の中核を担う人材の育成を柱に、教育環境の基盤整備、教育力の向上、知 の拠点形成、大学進学率の向上、地域の活性化に関わる20の事業を以下の実施体制のもとで遂行してい

いわて高等教育コンソーシアム実施体制

教育研究環境基盤整備等プロジェクト委員会

- ・共通キャンパスの整備
- ・Webを活用した授業学習支援システムの導入
- ・いわて情報ハイウェイを活用したネットワーク構築
- · 遠隔講義 (TV会議) システムの構築
- ·eラーニングシステムの構築
- ・いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信
- ・共通キャンパスを活用した公開事業の実施
- ・拡大版ウィンターセッションの実施

人材育成・地域文化拠点形成プロジェクト委員会

- 地域人材育成 (岩手学) 講座の開設
- ・特色ある講義の充実
- ・地域文化 (平泉、賢治、言語など) 研究の推進

SDプロジェクト委員会

· SD研修の共同実施

FDプロジェクト委員会

·FD研修の共同実施

教育の国際化プロジェクト委員会

- ・留学生教育の充実
- 教育の国際化
- 東アジアとの連携強化

地域の活性化プロジェクト委員会

- ・スポーツユニオン、シニアカレッジ等の実施
- ・生涯学習の場の提供

地域課題解決プロジェクト委員会

- ・学生の地域参加プロジェクトの実施
- 地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進

『地域医療・福祉の向上を目指す研究の推進』事業では、去る7月 24日(金)に盛岡駅西口のアイーナにて医科大学および連携大学 の学生や教職員総勢150余名が参加し地域医療見学研修発表会 でに岩手県立大学·岩手医科大学から合計5件

この研修では、医学部1年生が複数の小グループに分かれ、自治 募プログラム5件全てを採択しました(当初採 体や医師会・病院を訪問し、現場に携わる人々に調査・取材を行った 択予定件数2件)。 後、その結果を基に課題の解決に向け既存データと照らし合わせ分 析し、自らがどのように考え現状を改善できるか解決策を導きそので、岩手県立大学の「光るどろだんご作り指導 結論をグループ毎に発表しました。初の参加となった連携大学の学 生や教員は、本研修に参加し課題解決に向けた具体的な取り組み方 や発表の方法等を学び、来年度から予定する研修段階からの本格 参加に向け意欲を新たにしました。





『学生の地域参加プロジェクトの実施』事業 では、平成21年6月26日(金)の応募締切ま

の応募があり、その後開催された委員会で応

これまでに実施されたプロジェクトは3件 者養成講座 | が9月27日(日)に、同大「地域勉 強会~ホームレス支援ボランティアから感じた もの~」が11月3日(火)に、また岩手医科大 学「地域医療の実態調査~医療系大学の学生 の視点から~」が10月31日(土)にそれぞれ 実施されました。今後、残る2件のプロジェクト (岩手県立大学「STEP(発達障害児支援)」 「大学生の参加による観光資源を活用した地 域経済活性化のための研究1)の実施が予定 されています。

地域の活性化

プロジェクト

委員会

教育の国際化

委員会

『いわて情報ハイウェイを活用した講義の配信』事業では、平成21年度岩手医科大学

医・歯・薬学部合同特別講義(矢巾キャンパス)を、遠隔講義(TV会議)システムを 活用して岩手大学へ配信しました。実施日、講師、講義テーマは以下のとおりです。

- □6月10日(水)、森本俊文氏(松本歯科大学長)
- 歯は生涯の宝 一生理学から見た口の動き一
- □10月2日(金)、藤原哲郎氏(岩手医科大学名誉教授) 周産期・新生児医学(Perinatal and Neonatal Medicine)のトピックス
- □10月30日(金)、大島美恵子氏(東北公益文科大学教授·公益総合研究所長) 真に人の為になる医療を考える 一専門技術を持つ人の社会的責任―
- □11月13日(金)、西塚哲氏(岩手医科大学外科学講座講師) プロフェッショナルとしての役割

いずれも一般学生にも理解できるように工夫された講義で、岩手大学の 受講生は熱心に話に聞き入っていました。

教育研究環境

基盤整備等

プロジェクト

委員会

また、平成22年度からの遠隔講義の本格稼働 にむけて、岩手大学から、富士大学及び盛岡大学 へ、10月5日(月)に「日本の文学」(講師:佐藤竜 一氏)、10月7日(水)に「メディア文化論特講IV」 (講師:赤平大氏)を試行的に配信しました。



人材育成。

地域文化拠点形成

プロジェクト委員会

プロジェクト

委員会

『地域文化(平泉・賢治・言語など)研究の推進』事業では、平成21 年12月5日(土)平泉町立平泉小学校を会場に、いわて高等教育コ ンソーシアム、岩手県教育委員会及び「東アジアの海域交流と日本 伝統文化の形成 | 研究グループが共同主催し 「第10回平泉文化 フォーラム」が開催されました。

コンソーシアム構成大学を代表し岩手大学藤井克己学長の挨拶 の後、本年度発掘調査が行なわれた国特別史跡・無量光院跡の調査

の成果が発表され、つづいて平泉遺 之委員長により「柳の御所遺跡の発 掘調査一日本史に与えた影響と意 義一 | と題した基調講演が行なわ れ、文化庁主任調査官として柳の御 所遺跡の保存に尽力された経験を 踏まえ、遺跡を保護する重要性につ いてお話されました。



午後からは岩手県立大学の誉田 慶信教授ら5人による研究発表を受 け、岩手大学菅野文夫教授らの司会

でディスカッションが行なわれ、ここ10年間にわたる平泉文化研究 の成果や課題について活発な討議が行なわれました。

このフォーラムには約400名の参加者がありましたが、コンソー シアム構成大学からも学生約40名が参加しました。盛岡からの参加 者は大型バス3台に分乗し、車中では学生による平泉文化の歴史紹 介をするとともに毛越寺、フォーラム会場では解説や会場整理など を行い、日頃の勉学の成果を発揮していました。

『SD研修の共同実施』事業では、連携している5大学の職員の能力向上と教育

今年度は、主に研究協力分野の職員を対象として、9月17日(木)~18日(金)

に岩手大学・八幡平ハイツを会場として1泊2日の合宿研修及び11月9日(月)午

研究環境の改善等を目的として、5大学共同でSD研修会を実施しました。

『スポーツユニオンの実施』事業では、11月10日(火)に岩手県テニ ス界でトップを率いるテニス協会のジュニアチームと担当コーチ、ト レーナー、そしてコンソーシアムの教員、学生が測定ルーム(岩手大学 教育学部)に集まり、2次元3次元動作解析システム、形態・体組成測定 システム(身体の形態や体成分を測定・分析し、運動療法の基礎データ の収集を行う)などからなるスポーツ支援システムを使って様々な測 定、分析を実施しました。

この日に集まった選手達は、それまで一貫指導を受けているトップア スリートメンバーですが、本格的な測定の経験は無く、本測定機器によ る精密な測定について新鮮な興味を示していました。

この測定ルームに設置されている測定装置は、個々の運動機能の解

析や、データを基にした分析・評価 を目的として設置され、コンソー シアムの学生や教職員を始め、地 域で活動している選手や高齢者 の運動能力などの促進に広く利 用されています。年度内には県内 の自転車競技選手の動作解析に よるペダリングの評価も計画して います。

本事業では今後、スポーツや健 康系だけではなく、地域の健康増 進を目的としたパンフレットなど を作成し、広報活動を進めていく 予定となっており、岩手から世界 に向けたジュニア選手の育成や 健康な社会の構築に役立ててい きたいと考えています。



『教育の国際化』事業では、2009年8月

26日から9月4日にかけて、タイ、韓国、中国 アイスランドの学術交流協定校などから学生13名と教員2名を招 聘し、いわて高等教育コンソーシアムに所属する岩手大学、盛岡大 学の学生12名とともに、ヤングリーダーズ国際研修(YLIS)を実施 しました。

この研修は、グローバルなコミュニケーション能力や、多文化社会 へ対応する力を育成を目指すため、教育の国際化プロジェクトの一 環として2008年度から実施しており、開催2回目である今回は「農 産物の適正価格と持続可能な社会 | をテーマに、牛乳の生産を取り 巻く課題と持続可能な社会構築について、体験、討論等を通じて考 えました。

寝食を共にしながら、多様な視点から社会問題を集中的に検討す る体験は、学生同士の深い交流を掘り起こすだけでなく、ひとりひと りが世界と自分のつながりを具体的に意識し行動する契機となりま した。

ヤングリーダーズ国際研修 参加大学 【日本】岩手大学·盛岡大学 【中国】寧波大学·曲阜師範大学 【韓国】明知大学·群山大学 【タイ】サイアム大学 【アイスランド】アイスランド大学

プロジェクト プロジェクト 委員会

地域課題解決

プロジェクト

委員会

『FD研修の共同実施』事業では、岩手医科大 学及び岩手大学主催のプログラムへ連携大学か ら参加者が加わる形で、本年度のFD合宿を実施 しました。

TOPICS

大学と岩手県立大学から7名が参加し、総勢36 を軸に、ワークショップ形式で理解を深めました。 名で実施されました。岩手医科大学のスタッフと やグループワークでの指導にあたりました。



8月20日(木)~21日(金)には岩手大学大学教育総合 センター主催の「FD合宿研修会」が、「学士力の育成と問題 解決型授業の導入」をテーマに、岩手医科大学と盛岡大学 から4名が参加し、総勢48名で実施されました。初日は岩 7月17日(金)~18日(土)に岩手医科大学教 手医科大学医学部解剖第二講座教授の佐藤洋一先生によ 育研究部会主催の「医学教育ワークショップ」 る講演からPBLの活用を軸に、二日目は中央教育審議会答 が、「カリキュラムプラニング」をテーマに、岩手 申『学士課程教育の構築に向けて』における学士力の概念

大学の枠を越えて集あつまった専門分野の全く異なる教 招聘講師として加わった東京慈恵会医科大学臨 員が、同一のテーマでグループワークをこなせるのかどう 床免疫学研究室の松島雅人準教授が、全体討論 かが心配でしたが、専門分野は違っていても参加者には「教 育しという共通項があり、活発な議論が展開されました。



後に岩手大学を会場として熊本大学大森不二雄教授の講演会及び演習を実施し ました。合宿研修では、講演のほか、グループ ワークでKJ法を用いて各大学の業務に係る 問題点等を抽出の上、改善策等をまとめ、発

表しました。講演会及び演習では、大森教授よ り「変革する大学と職員の役割」について講 演があったほか、外部資金獲得に係るグルー プワークを実施しました。これらのSD研修会

では、5大学の いわて高等教育コンソーシアムSD研修 研修参加者間に

おけるネット ワークを構築す る良い機会とな りました。また、 今後、このネット ワークが継続・ 発展していくこ とを期待してし

ます。



